

緑友会だより

緑友会だよりの発刊に寄せて

緑園南緑友会会長 根本 暉



私達の『緑友会』は、昭和六十三年に発足した『緑寿会』を母体として、

その後の会員数増加に伴い、平成十二年に『南緑友会』と『北緑友会』に分かれ、今日に至っております。昨年十月には設立二十周年記念祝賀会を開催することが出来ました。これまで生み育てて頂いた役員・会員諸先輩の皆様にご心から感謝申し上げます。次第でございます。

周知の通り、今や我が国の高齢化は年々増加の一途を辿り、高齢化から高寿命化へと移りつつあります。この中において私達老人クラブは、社会的にも、人生の生き甲斐づくりに重要なポジションにあります。いつまでも元気に、健康で人生を明るく有意義に過ごしたいものであります。『緑友会』の活動の中、趣味のサークルとしては、カラオケ・グラウンドゴルフ・社交ダンス・俳句・麻雀・卓球・食べ歩き等の会等があり、会員相互の親睦を深めつつ、毎回生き生きと楽しく活動しております。

更に、私達が健康で楽しく過ごせる社会への感謝として、ボランティア

発行 緑園南(北)緑友会
編集 山深(山深)責任者
Tel 045-811-1580

活動への参加も実践しております。緑園地区のクラブハウス・自治会館・緑園都市駅・各周辺清掃、花壇造り等『さわやかグリーン運動の会』の活動により地域住民が気持ちよく暮らせる街作りに微力ながらも貢献しております。

緑友会の活動としては、この他に、例えば年数回の『日帰りバス旅行』等々もありますが、こうした日頃の活動内容が、会員の皆様にとどの程度伝わっているだろうか懸念され始めています。

本年度の緑友会の重点活動方針が、新規会員の加入促進であります。それを実現する為の第一歩として、先ず会員の皆様に緑友会の実態をもっと知って頂き、緑友会の活動が健康で楽しいものであると実感することが必要ではないかと判断致しました。そのための一手法として、機関『緑友会だより』を発行することと致しました。会員の活動情報をタイムリーに提供すると共に、会員の皆様方にも楽しく、心温まる様な色々な投稿をお願いする等、会員相互のコミュニケーションの場を積極的に作って行きたいと考えております。この取り組みに是非ご賛同下さいまして皆様方の絶大な御協力をお願い申し上げます。

“生きがい”の新年度がスタート

去る四月二十六日(日)平成二十一年度総会が緑園クラブハウスで開催され、会員七十余名の参加のもと平成二十年度の活動と決算報告、二十一年度活動計画ならびに予算の審議、さらに、新役員・幹事の選出が行われました。



がいを実感できる会の運営をモットーに、一人でも多くの会員が参加できるイベントの企画や、健康で楽しく過ごせる地域社会への感謝としてのボランティア活動を拡大推進すること。また、個々の会員が味わう楽しさを、未加入の方々にも伝えて入会を勧めていくこと。さらに、会としても諸団体を通じた入会促進活動を推進するなど、活発な計画が満場一致で承認され、より充実した会の構

築に向けてスタートしました。
役員の変更(南緑友会のみ)
新任 会計 今村 芳子さん
同 大澤 治子さん
退任 会長代行 池谷 清さん
会計 小原 一四さん
退任された方にはこれまでのご尽力に心から感謝申し上げます。

活動範囲を拡大

「さわやかグリーン運動の会」
緑友会は地域社会への感謝として、従来緑園都市駅周辺の清掃(さわやか運動の会)会長 横田行雄氏)と、緑園クラブハウスおよび自治会館内外と花壇の維持管理(グリーンライン運動の会)会長 吉沢逸男氏)の奉仕活動を分離して行っており、これら活動をさらに拡大推進するため、二グループを統合して効率を高めようと、二月に併合し「さわやかグリーン運動の会」(会長 吉沢逸男氏)と改称しました。

昨秋の「緑園メッセ」の『緑友会活動紹介ブース』が緑で、高齢者ショートステイセンターの「花の生活館」(緑園地域交流センター)三〜四階)の中庭と、ヘラングにあるプランタの花植之作業の要請があり、新たな作業としての時期や具体的作業方法などを検討しておりました。

去る四月二十一日(火)にプランタ一三四個の土替えと花植之作業を実施しました。約四時間におよぶ作業でしたが、経験を活かし、手際良く進めている作業風景を窓越しに見ていたショートステイの訪問者は、作業者が同年代のシニアクラブのメン



北村節子さん(南緑友会) 東京マラソンで激走

去る三月二十二日の東京マラソンに北村節子さんが参加、三万五千人のランナーの一人として激走しました。コースは東京都庁前(新宿)→皇居前→品川→銀座→浅草→東京ビッグサイトの四十二・一九五キロ。

北村さんは大勢のランナーに取り囲まれ本来の走法が出来なかつたこともあり、銀座手前にある中間点の関門で、三時間三〇分の制限時間をクリア出来ず残念ながらゴールに至りませんでした。

今回の経験を活かしてトレーニング方法も研究のうえ来年は必ず走破を、すでに準備を開始しました。年齢を感じさせない北村さんのファイトを我々も見習いたいものです。